

本日ここに、卒業される 3 年生の皆さん卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。長きにわたる子育てにも一区切りし、ひと安心されていることとご推察いたします。

ご来賓の皆様方には、公私共大変お忙しいところ、本校卒業式にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、皆さんは、1999年・2000年生まれです。物心ついた時には、21世紀に入り、変化の激しい時代を過ごしました。21世紀は「共生の時代」「スピードの時代」などと言われていました。変化の激しい時代を周囲と共に協力して生きる必要があります。

今まで皆さんが取り組んで、身につけてきたことが、これからの社会を生き抜いていく上での基礎・土台となります。この青藍泰斗高等学校の3年間で、身につけたことを確認しておきます。

1つは社会性です。

私たちは、決して一人では生きていけません。周囲と共に生きるには、社会性が求められます。家族や地域、共に働く仲間、民間のサービスや公共サービスなどがあって生きることが出来ます。自己中心的な考えや態度では、生きることができません。ともすると、慢心から感謝の気持ちを失いがちになります。周りの人、そして環境や周囲の事物に対しても感謝していく気持ちが大切です。

みんなが困らないようにする「社会性の」一つは、ルールを守ることです。

具体的には、時間厳守です。時間を見て主体的に動けるようにするために、チャイムで動くのではダメなので、本校ではノーチャイムで生活しています。校外に出る修学旅行などで生きてきます。皆さんは5分前行動が取れるので、200名の団体がスムーズに行動できます。

次に、周囲への気配りです。いわゆる5S、環境整備も身につけました。製造現場などで仕事をする上でも不可欠な要素ですので、日頃から心掛けてもらいました。自分の教室、学習環境に気を配ることも社会性です。「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の5つのSを実践することで、多くの人が気持ちよく過ごせるだけでなく、一つのことに集中する場面を作り出せます。集中することで、その人の能力を最大限に発揮できます。

更にクラスや部活動での人間関係の難しさも学んだと思います。自分以外の考えに耳を傾け、理解する寛容性がなければこれからの多様性に富んだ社会では生きられません。「十人十色」です。それぞれの存在を認め合うことが出来なければ、人間関係を良好に構築できません。そのための、コミュニケーションの第一歩である「挨拶・笑顔・返事」など、ホームルーム・授業・清掃活動・部活動を通じて、実践してきました。

同時に相手に好印象を与える身だしなみを整えることも、「共生社会」では大切なことです。

身につけた2つめは「校訓」です。

「誠実なれ 勤勉なれ 規律を守れ」の校訓は、3年間で心に刻まれたはずですが、裏表

のないこと、言葉と行動が一致することが「誠実さ」です。自分の役割・使命を責任持って果たすことが「誠実さ」です。

毎日休まずに登校することは、「勤勉さ」です。毎日休まずに通えた人は「勤勉さ」を身につけました。また、授業に集中して50分で、どれだけ吸収して身につけるか頑張ることは、「勤勉さ」です。成績上位を維持した人は「勤勉さ」を身につけました。

「規律正しさ」も身につけました。登下校時、危険な裏通りを通らないことなど、校則を守ることでありますが、ルールを守ることにより自分自身を守っています。交通ルールも同じです。周りに迷惑をかけないと同時に自分自身を守っています。規律正しい生活が「安心・安全」に繋がっていますので、どんなルールもしっかりと守る習慣をこれからも続けてください。

せっかく身につけた校訓をこれからも「座右の銘」として心掛けてください。

今日で、高等学校は卒業しますが、皆さんの学びはここからがスタートです。皆さんは、これからさらに成長する「未完の利器」です。これからも向上心を忘れずに学び続けてください。

「人生100年時代」と言われています。その「長い歳月」を有意義に生きるために、これからも学びが不可欠です。今まで存在した仕事は、ITの活用やロボット・AIの進化によって消滅していきます。人でなければ出来ない創造的な仕事にシフトしていきます。そこで必要なことは、新たな知識を習得し、技術を習得する学びのプロセスです。

これからの社会は、新しいことにチャレンジすることや未知の分野に興味を持って取り組む態度は不可欠です。自分自身を常にアップデートしなければなりません。忘れてならない2つのキーワードは「主体性」と「意欲」です。

自分自身が情報収集し、判断し決断し実践する態度です。簡単に周りに流されてはいけません。難しい言葉ですが、「随处作主」という禅語があります。「いつでも、どこでも主人公であれ」という意味です。どんな環境や立場に置かれても主体性を持って、自分の持つ能力を全て発揮することです。「自分がいないと困る」ように存在感を高めることです。そのためには、周りの状況を嘆くより、周囲への不平不満を持つより、前向きに意欲的な心の持ち方が大切です。

「誠実なれ 勤勉なれ 規律を守れ」の校訓を実践することで、皆さんの人格は磨かれ、「きっと君を輝かせる」と信じています。

結びになりますが、私からの餞の言葉は、「諦めない」です。困難が立ちはだかった時に簡単に諦めることなく、あらゆる手段を尽くして色々なことに挑戦し「とにかくあがく」ことが大切です。変ずれば通ずることもあります。

本校の中庭のロータリーに真ん中に、梟（不苦勞）のオブジェが置かれています。創立百周年を記念して造られたものです。卒業生がここから飛び立ち、「誠実なれ 勤勉なれ 規律を守れ」の校訓を心に刻み、社会で活躍することを願って建てられています。

これからは困難や苦勞も多いとは予想出来ませんが、皆さんの前途が幸多きことを祈念し、平成29年度卒業式式辞とします。

皆さんの活躍を期待しています。

以上